

社会福祉法人 優和会

令和 7 年度

事業計画書

目 次

1	社会福祉法人優和会 運営方針	．．．．．	P	1
2	グループホーム（2事業所）	．．．．．	P	2
3	通所介護どんぐり	．．．．．	P	3
4	訪問介護どんぐり	．．．．．	P	4
5	居宅介護支援事業所どんぐり	．．．．．	P	5
6	デイサービスくぬぎ	．．．．．	P	6

令和 7 年度社会福祉法人優和会事業運営方針

昨年度は感染症による休業等の事業への大きな影響はなかったものの、コロナやインフルエンザの感染は依然として散発しており、事業所内感染の防止には今後も注意していかなければならない。

インドネシアからの3名のスタッフも採用から1年経過する中で順調に業務が行えており、今後の採用も計画的に行なうことが出来れば、外国人スタッフも今後の事業運営の大きな力になると思われる。

グループホームも満床となり、順調に活動出来ているため、今後は支援の充実と更なる進化を目指す中で、チームを先導するリーダーの育成が重要である。事業所内のチームワークを高め、更には各事業所の固定概念にとらわれず、他事業所と協力、協働することで法人全体の運営に貢献できる人材を育成していかなければならない。

また、業務負担の軽減を図るため、効果的な ICT 機器の導入を推進し、職場環境を整え、働きやすく長く勤めることが出来るように法人全体で取り組んでいく。

重点項目

① 非常災害対策・感染対策

災害や感染症の蔓延が起きた場合、どのように対応し事業の継続に繋げるかを想定した BCP（事業継続計画）を各事業所単位で策定したので、今後は訓練を行なう中で、見直しや各事業所の協力体制などについて検討し、より実効性のあるものとしていく。

② 人材確保

職員確保が難しい中、外国人をはじめ多様な勤務形態を上手く組み合わせるなど、職員が働きやすく長く勤められる環境の整備に取り組むと共に、この仕事のやりがい、職場環境などを外部に発信し、興味をもってもらう取り組みを行なう。

③ ハラスメントの防止

職場内のハラスメントには厳正に対処するとともに、ハラスメントが起こる環境を改善すること、相談し易い体制を整えることなどに取り組み、職員が気持ちよく働ける環境を構築する。

④ 地域貢献

社会福祉法人として地域から求められていることは何かを常に意識し、白老町から委託を受けている事業（在宅介護支援センター、介護予防サロン、認知症カフェ等）については、その効果を発揮できるよう積極的に取り組むとともに、認知症サポーター養成講座や出張カフェなど、その時々ニーズにも常に対応できるよう取り組む。

⑤ ガバナンスの強化

社会福祉法人として、事業経営における透明性の確保は絶対であることを念頭に、組織体制の再整備、各種規程の見直し等を行ない、健全な経営、安定した事業運営に取り組む。

グループホーム 事業計画

事業の種類

グループホームどんぐりの里

認知症対応型共同生活介護事業（定員 9 名×2 ユニット 合計 18 名）

認知症対応型通所介護事業【共用型】（定員 3 名×2 ユニット 合計 6 名）

グループホームかしわ

認知症対応型共同生活介護事業（定員 9 名×2 ユニット 合計 18 名）

運営の方針

認知症により在宅での生活が困難になった方に対し、専門性をもったスタッフのサポートにより、穏やかに自分らしく暮らせる環境の提供に努めることが重要である。利用者の個性を尊重するのはもちろんのこと、共同生活ゆえの生活の刺激や気遣い、協力協働することでの人との関わりの中で、自分らしさが発揮できるような支援に努めていきたい。

自らの体調の悪化やそれに関連した気分の変調を上手く訴えることが難しい方が多いので、日常生活での観察や各スタッフの情報共有に努め、チームとして共通の認識のもと支援を行なうことが、生活の質の向上や事故防止に繋がることを常に意識し支援を行なう。

事業の重点目標

- ・感染対策を行ないつつ、ホーム内行事を楽しむことや地域行事、町内会活動への参加など地域の一員としての当たり前の生活が継続出来るよう取り組む。
- ・非常災害対策計画のスタッフへの浸透や見直し、それに基づく訓練の実施など、いつ起こるかわからない災害に対する準備を常に行なう。
- ・地域回覧や SNS での発信を通して、グループホームでの生活を外部に伝えることで、認知症に対する理解を広めることや、認知症関連の相談窓口であることを広めていく。
- ・在宅利用者への隙間のない支援を目的に、通所介護が休みの土日の支援を行なう共用型デイサービスは、利用者数とスタッフ人員確保の面から、グループホームどんぐりの里でのみ継続して行なう。
- ・BPSD（認知症の行動・心理症状）の発現を未然に防ぐことや、軽減を目的に行なう認知症チームケア推進加算を算定する中での取り組みには、スタッフの支援力の向上に繋がる要素が多くあるので、継続して取り組んでいく。
- ・計 4 つのユニットが、利用者の状態やスタッフの力量などから、それぞれの特色を持ちながら活動しているので、支援の中で得た成功事例などを共有し、互いに高め合っていけるよう取り組む。
- ・介護記録システムの導入で、情報共有などでの一定の効果はあるが、業務負担の軽減に繋げるにはもう少し工夫や検討が必要である。様々な視点で検討しながら ICT 化を進めていく必要がある。

通所介護どんぐり事業計画

1 運営の方針

- ・地域の高齢者が、住み慣れたこの地での生活が継続出来るよう、必要な機能訓練を行うと共に、スタッフや他の利用者との関係の中で、心身共に活力を得られるような通所介護サービスを提供する。
- ・利用者及びその家族が、安心して利用することができ、また来たい、通わせたいと思われるよう、個々の状況に合わせた配慮をスタッフ全員が意識し、サービス提供する。
- ・関係機関や地域の方との連携を密にし、利用者の在宅生活を支える総合的なサービス提供に努める。

2 事業の重点目標

- ・個々の状況に合わせ、利用者及びその家族と一緒に取り組もうと思える目標を定め、在宅生活の質の維持・向上に繋がるサービス利用ができるような介護計画を提案する。
- ・常に利用者の様子を気を配り、身体状況の変化、表情や言動の変化を察知し、傾聴するなどの適宜の支援や、必要な助言を行うことが出来るよう、スタッフ間の情報共有をし、意思統一を図る。
- ・感染症の蔓延に常に注意し、施設内や送迎車両の衛生管理を行うと共に、利用者の体調の変化への気づき、情報交換しやすい家族との関係性の構築に努める。また、スタッフ自らの体調管理をしっかりとする。
- ・ICTを活用し個別機能訓練等の加算を効率よく算定できるよう取り組み、スタッフの業務負担を増やすことなく有効なサービス提供を行なう。

3 緊急時の対応

- ・利用者の急変時には慌てず的確な行動が出来るよう、スタッフ全員が日々意識し、ミーティングなどでも話し合う。
- ・看護師をはじめ周りのスタッフの協力を直ぐに仰ぎ、管理者への協力要請を行う。救急車の手配が必要と思われる際は、躊躇せず連絡する。
- ・火災、地震や津波などの非常災害に備え、避難方法を常に念頭におき行動する。

4 非常災害対策

- ・火災避難訓練（2回／年）、津波避難訓練（1回／年）を行う。
- ・暴風警報が発令されるなど、利用者の安全を確保することが難しいと判断した際は、当該日に無理な運営はせず、事業の中断、中止をすることに躊躇しない。
- ・当該日に事業運営は行わなくとも、関係者との連絡調整や必要な安否確認を可能な限り行う。

5 地域貢献

- ・毎月第3土曜日に行っている白老町からの委託事業の介護予防サロンも順調に活動出来ており、参加者も毎月楽しみにしてくれている様子が伺えるため、継続して介護予防に繋がるよう取り組んでいく。

訪問介護どんぐり事業計画
(介護保険事業、障害福祉サービス事業)

1 運営の方針

- ・地域の高齢者又は障がい者が、住み慣れたこの地での生活が継続出来るよう、利用者の心身状況、生活環境に応じて、入浴、排せつ、食事などの身体介護、調理、洗濯、掃除、買い物などの生活援助（家事援助）を適切かつ効果的に行う。
- ・利用者との信頼関係のもと安心して利用することができ、単なる家事代行業ではなく、各法令に則った専門職としての介護サービスの提供に努める。
- ・関係機関や地域の方との連携を密にし、利用者の在宅生活を支える総合的なサービス提供に努める。

2 事業の重点目標

- ・個々の状況に合わせ、利用者及びその家族と一緒に取り組もうと思える目標を定め、在宅生活の質の維持・向上に繋がるサービス利用ができるような介護計画を提案する。
- ・常に利用者の様子を気を配り、身体状況の変化、表情や言動の変化を察知し、必要な助言を行うことや関係者への連絡が効果的に出来るよう努める。
- ・感染症の蔓延に常に注意し、自らの体調管理、衛生管理に努め、感染の媒体になることが無いよう、常に意識した行動に努める。

3 緊急時の対応

- ・利用者の急変時には慌てず的確な行動が出来るよう、ミーティングなどでも話し合う。
- ・事業所への連絡をし、必要な場合は管理者又は他の職員の応援要請を行う。救急車の手配が必要と思われる際は、躊躇せず連絡する。
- ・救命救急の講習は定期的に繰り返し受講することで、いざという時に慌てることが軽減できるため、機会をつくり積極的に受講する。
- ・火災、地震や津波などの非常災害に備え、避難方法を常に念頭におき行動する。

4 地域との協力

- ・訪問介護サービスを提供する時間は、利用者の生活の中ではほんの一時であり、在宅生活を支えるには、地域の協力が重要になってくる。介護サービスを利用することで、地域との繋がりが薄れることの無いよう配慮した行動に努める。
- ・町内各訪問介護事業者が、訪問介護員の不足でサービス提供に苦慮している。訪問介護員ではなくとも、地域の助け合いで出来る支援を普及できるよう、白老町や各事業所と検討する。

5 人員不足への対応

- ・訪問介護員は常に募集しているが応募はなく、限られた人員体制でのサービス提供は今後も続くと思われる。必要としている方に効果的な支援が出来るよう、担当介護支援専門員との連絡調整を密にする。
- ・訪問介護員の不足が続く中、現在のスタッフの高齢化もあり、訪問介護事業の中でも継続する事業を厳選して行う必要がある。白老町や関係機関とも協力し、地域の方に出来るだけ迷惑をかけず、他の事業者との役割分担なども検討する。

居宅介護支援事業所どんぐり事業計画
在宅介護支援センターどんぐり事業計画

① 制度内容の理解

引き続き、介護保険制度改正及び介護報酬改定の内容について理解を深めると共に、自己研鑽を図る。

② 特定事業所加算（Ⅱ）の取得

週 1 回の留意事項伝達会議は、基本的には、毎週木曜日の 9 時から継続する。

尚、月単位での研修の担当制は、今まで同様とする。また、地域包括支援センターが実施する事例検討会や研修会へ参加し、他の法人が運営する居宅介護支援事業所と共同で事例検討会・研修会等を実施する。

③ 地域包括支援センターとの連携

地域包括支援センターからの初期集中支援チーム等、支援困難ケースの依頼は、引き続き、積極的に受け入れる姿勢で取り組む。

ケースの状況に応じて、居宅研修で検討すると共に、白老町主任ケアマネに支援の介入を依頼する。また、必要に応じて、要支援者や総合事業対象者の業務委託等も検討する。

④ 医療との連携

入退院時における担当利用者の精神的な不安や混乱を軽減できるよう、可能な限り、家族や町内・外の医療機関との連携を図る。また、入退院時の加算取得にも取り組む。

⑤ 業務内容の効率化

専従の介護支援専門員として、可能な限り、適正担当件数の上限数まで担当する。

また、支援経過記録の簡素化、無理の無い範囲で訪問時間を調整する等、就業時間内で業務を管理する。

⑥ 実習生の受け入れ体制の整備

道社協から実習生の依頼を受けた場合は、主任介護支援専門員等の指導のもと、ケアマネジメントの一連の業務を指導すると共に、要介護高齢者の生活実態を知る事で、実践にあたっての留意点や今後の学習課題等を認識できるように努める。

⑦ 地域型在宅介護支援センターとしての役割

白老町地域包括支援センターの委託に基づき、石山、萩野、北吉原地区の相談機関としての役割を果たす。

⑧ 白老町ケアマネジャー連絡協議会

今後も、定例会や講演会への参加を継続し、他事業所と協同して、白老町の地域福祉の充実を図る。

デイサービスくぬぎ事業計画

1 どんぐりの森 運営理念

「おらが町で、共に生きる」

◎私たちは、決して慣れあうことではなく、「馴染みの関係」を大切にします。

◎私たちは、利用者様との出会いに感謝し、明るく、安らぎのある生活の実現に努めます。

◎私たちは、住み慣れたこの町で、地域におけるあたりまえの生活の実現に努めます。

◎私たちは、利用者様の日々の変化に配慮し、持てる力が最大限発揮できるよう介護の向上に努めます。

上記の運営理念を実行しながら、介護保険法の目的でもある「自立支援」を趣旨とし、創意工夫を行いながら日々の支援を実施致しています。

2 事業の重点目標

- ・利用者及び家族の状況に合わせて不利益が生じないよう、介護計画の作成に努める。
- ・利用者の身体状況、認知機能、言動等に気を配り、スタッフ間の情報共有、意思統一を図り、適宜の支援や助言を行えるよう努める。
- ・コロナウイルスの感染症は依然として散発しているため、今後も感染症対策を継続し、利用者、スタッフが安全に過ごせる環境作りに努める。

3 緊急時の対応

- ・利用者の急変時には的確な行動が出来るよう、ミーティングを活用して対応方法の確認や情報伝達と受診（救急搬送）が行えるよう、スタッフ間の情報共有に努める。
- ・火災や津波等の非常災害に備え、避難方法、避難場所の資料の掲示、配布を行う。

4 非常災害対策

- ・火災避難訓練（2回/年）、津波避難訓練（1回/年）を実施する。
- ・暴風雨等、利用者の安全を確保することが難しいと判断した際には、当該日に無理な運営はせず、関係者との連絡調整や必要な安否確認を可能な限り行う。
- ・感染症対策委員会と連携し、感染症対策研修、感染症対策訓練を年4回実施。
- ・BCP の運用訓練を年 2 回行い、訓練後の振り返り、見直しを行いながら、より実効性のある計画、訓練を実施する。
- ・火災発生時や災害発生時においても相互協力にて人命救助等が行えるよう、回覧版にて避難訓練のお知らせ、町内の訓練等には参加致します。

5 地域貢献

- ・白老町からの委託事業の認知症カフェや出張カフェの開催を通じて、認知症に関する情報の発信やチームオレンジと連携し、誰もが集える場所になるよう努める。

6 今年度の目標

- ・職員個々の年間目標を提出してもらい、年間を通し管理者による面談を行い、達成状況の確認、助言、指導、勤務状況の確認等を行い、個々のスキルアップを目指す。
- ・地域との関りを深めるために、町内の行事への参加、協力を行なっていく。